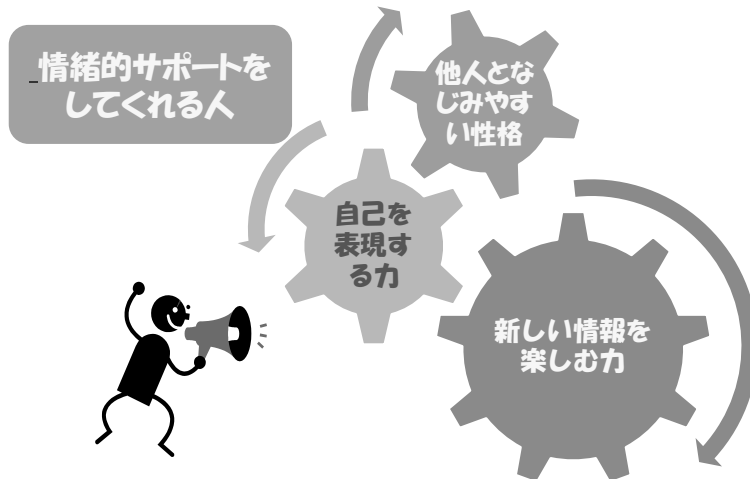


# レジリエンスの歯車を噛合わせる ⇒危機介入支援プログラム

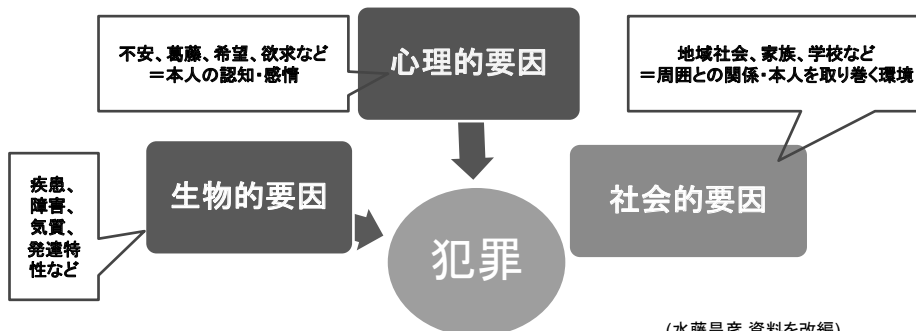


## Ⅱ 立ち直りのための3アプローチ

環境調整は大事である  
やれることも多い  
でも、  
これだけでは足りない人も  
少なくない

## 生物・心理・社会(BPS)モデルに基づくアセスメント

トラブルを起こしてしまう障害者をどう捉えるか

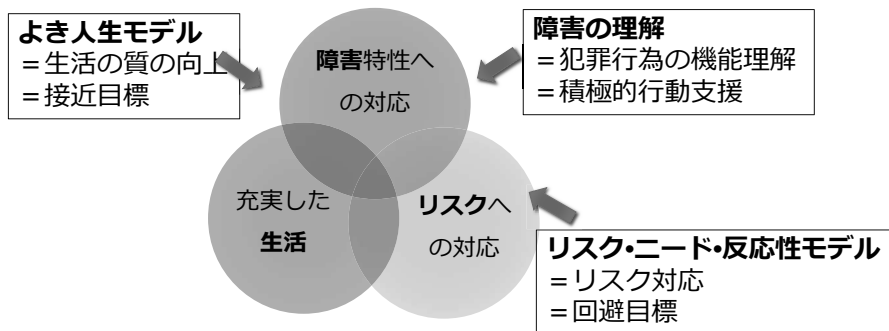


### Ⅲ リスクアセスメント

対象の環境や心理の  
アセスメントを  
適切に実施している  
だろうか

生きづらさを抱えた障害者のための  
問題行動からの離脱学習プログラム開発

#### 「相乗モデル」による更生支援



(Frize 2015をもとに改編 ; Frize in press)

### リスク・ニーズアセスメントの必要性

- ・リスクレベルと処遇密度(再犯率%)

	リスク	低密度 処遇	高密度 処遇
Bonta et al. 2000	低い	15	32
	高い	51	32

## アセスメントの重要性

➤ リスクの低い群に高密度の処遇を行ったところ、

再犯率が高くなってしまった

➤ プログラムの効果を高めるには、

対象者のリスクに見合った処遇が必要

(Andrew & Bonta, 2003)

➤ だから、適切な支援のためには

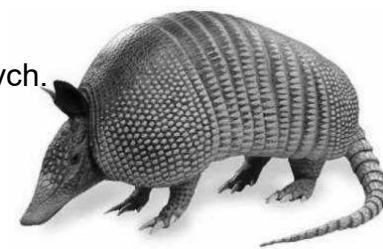
適切なアセスメントが必要。

22

## ARMIDILO-Sによる動的アセスメント

### The Assessment of Risk and Manageability for Individuals with Developmental and Intellectual Limitations who Offend Sexually (ARMIDILO-S)

Douglas P. Boer, Ph.D., R.Clin.Psych.  
Professor of Clinical Psychology



## ARMIDILO-Sによる動的アセスメント ★

- 性犯罪再犯に関するリスクを増加もしくは減少させる可能性のある要因を特定し管理するためのツール
- ⇒ リスクを低下させ、保護要因を強化することに焦点を当てるプロセスを反映
- 継続的（過去1、2年）な
  - クライアントに関する情報と
  - 環境（支援者の態度や支援者間の情報共有、介入の一貫性など）に関する情報、
- 短期的（ここ2、3カ月）な
  - クライアントに関する変化と
  - 環境の変化、
- という4つのカテゴリー27項目で、それぞれ「リスク」と「保護因子」とを評価する

# ARMIDILO-Sによる動的アセスメント例★

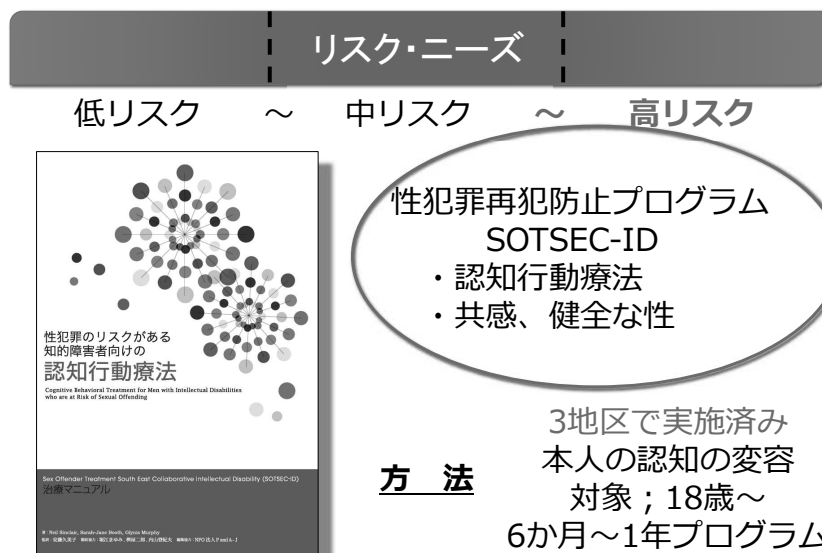
持続的なクライアント項目	リスク 評定	関連するデータ/コメント	保護要 因評定	関連するデータ/コメント
1. 監督へのコンプライアンス (規則遵守、協力的か、規範意識)	S	親への反発がある…	Y	危険に対する自己認識は ある。規則は守る…
2. 治療へのコンプライアンス (同意、通院、治療に関わる強 味…)	N	自分の行動を直したいと希 望している…	Y	通院している…
3. 性的な逸脱 (行動、空想、興味、ヒストリー…)	Y	女子高生が好き 出会い系サイトにはまったこ とがある…	N	エレベーターには乗らない ようにしている…
4. 性への没頭/性衝動 (マス頻度、ポルノの利用、性的コ メント、自己コントロール…)	X	扱いやすい子を選んでいる 女性への恨みがある…	Y	ストレスが生じると自分か らカウンセリングを受け る…

Y=Yes(確実に問題ある/保護要因である) N=No(問題ない/保護要因でない)  
S=some(いくらかある) X=わからない(さらに情報を集める必要がある)

## 正確なリスクアセスメントと リスクマネジメント

1. 日常的な支援者(家族、GH世話人、事業所支援員、  
雇用主 etc.)からの情報提供と後方支援
2. 当事者からの聞き取り、セッション進行の中から知る  
情報の重要性
3. 環境リスクの把握と送迎体制等の配慮が必要な場合も
4. 一人一人とつながるメール・SNS等の活用
5. いざという時の関係機関(弁護士、病院、福祉事業所等)  
連携

## リスク・ニーズと今まで開発した学習プログラム関係



## リスク・ニーズと本事業で開発する学習プログラム



## IV 危機介入支援プログラム

—性問題を中心に

SOTSEC-ID（性加害成人向け）

Keep Safe（性加害青少年向け）

### SOTSEC-ID



### Keep Safe ySOTSEC-ID

PandA-J 文部科学省生涯学習委託事業

性的問題行動のある知的・発達障害者向け  
問題修復プログラム開発

## 背景

性犯罪はその再犯率が高いことに加え、被害者に与える影響も甚大である。わが国においても、小児に対する残虐な事件が発生したことで、性犯罪者の処遇や治療に対する社会的関心が高まり、性犯罪者を対象としたリスク評価や治療プログラムの開発などが進められてきた。

一方、性犯罪の加害者には知的障害をもつ者も少なくないとされているが、知的障害者に特化した治療プログラムは殆どなかった。ここで紹介するSOTSEC-IDは、知的障害をもつ性犯罪加害者のために開発されたCBTを基盤とした治療プログラムで、英国では2002年から導入されている。

認知行動療法(CBT)プログラム(英国KENT Univ. で導入)

<http://www.kent.ac.uk/tizard/sotsec/>

開発者: Glynis Murphy博士およびNeil Sinclair博士

★刑事施設内ではない「地域ベース」のコーポレーティブ・システム

★SOTSEC-IDは、出来合のプログラムはないので、リスク・アセスメントのあとの教育プログラムや認知スキーマの組み替え、リラプス・プリベンションは、参加者に依って工夫が必要

## プログラムの概要

# SOTSEC-ID

### ① 参加条件

- ・性犯罪歴がある男性 ・18—60歳 ・IQ 55—80
- ・過去の性的虐待の有無は問わない  
(e. g. 参加者の55%は性的虐待の被害者)
- ・法的義務の有無は問わない  
(e. g. 参加者の約40%は法的義務はなかった。  
60%は精神保健法あるいは 社会更生命令:CRO)
- ・他の併存障害の有無は問わない  
(e. g. 自閉症スペクトラム障害(ASD)の診断:23%;  
パーソナリティ障害 28%;気分障害 23%;  
その他の精神疾患 9%)
- ・犯罪行為の種類は問わない: ストーカー、性的暴行、露出、レイプ  
;被害者は子どもと成人、男女

注:ここに例としてあげているのは2010年に英国で実施された13グループ(46名)の結果です。

## SOTSEC-ID プログラムの概要

### プログラムの構成

週1回2時間のセッション、1年間、クローズドなグループ



## セッション構造 (例 ; 各地により検討)

◆日時 毎週土曜日 14:00~16:00

◆ファシリテーター

2人以上 (支援者、精神保健福祉士・社会福祉士、障害福祉事業所職員、  
弁護士、少年院教官、特別支援学校教諭)で構成。

各回は、MFT1、SFT1~2、計2~3名で実施。

◆セッションの流れ

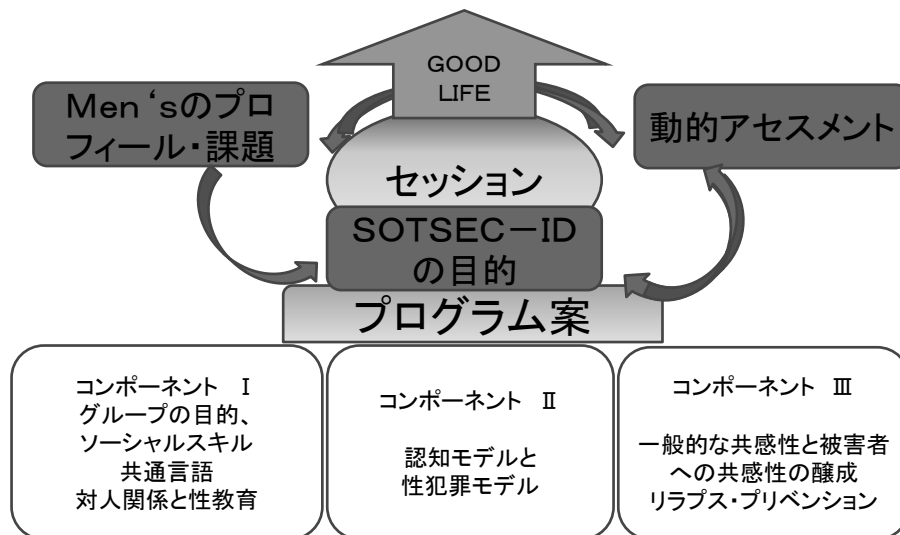
準備 13:00にメンバーが集合し、会場づくりとその日の確認をする

1. 前回の復習 宿題の確認と前回内容のディスカッションによる確認
2. 新しい課題の導入 新しい概念やスキルの提示
3. (休憩:お茶やお菓子を食べる)
4. スキルの確認とモデリング・ロールプレイなど
5. 宿題の提示 (ないときもある)
6. 旅費の精算・会場整理・帰宅時注意事項等  
片付け・反省



◆メンバーが帰ったら、反省と次回以降の打合せを17:00迄

## セミオーダー (SOTSEC-ID) プログラム構造



## プログラム・コンポーネントの内容-I

### 1 ソーシャルスキル ★

- 1) 話を聞く、会話を始める、自己紹介をするなどの基礎的スキルを獲得する
- 2) 援助を求める、謝罪する、自分の感情を把握して表現する、ポジティブな社会活動に仲間を誘うなど。
- 3) 価値観の多様性を受け入れ共存する態度を培う
- 4) 8つの基本感情、傷つき、戸惑い、恥じらいといった複雑な感情を認識し表現するなど。

### 2 認知行動モデル



- 1) 行動をABCモデルで理解する
- 2) 問題行動を引き起こす思考/感情/出来事 of 理解など
- 3) 気持ちを言語化する(思考と感情を言語化し省察し、別の思考と感情に置き換える)

## プログラム・コンポーネントの内容ーⅡ



### 3被害者への共感



- 1) ト라우マ的被害体験が人生に及ぼす影響の理解
- 2) ステレオタイプな男性性を健全な男性アイデンティティに置き換える
- 3) 女子と子どもに対する歪んだ信念の矯正

### 4衝動コントロール、リラプス・プリベンション

性的問題行動の先行事象の理解と逸脱的な性の思考を中断するための認知行動的介入

- 1) 衝動コントロールと判断の強化、行動の社会的、情緒的、法的結果の予測によって、性的興奮や行動化につながるような思考を中断する
- 2) 怒り感情の認識能力と感情調整能力の改善

## プログラム・コンポーネントの内容ーⅢ



### 5健全なセクシャリティ

- 1) 男性の身体と性的しくみ、女性の身体としくみ
- 2) 3つの性的欲求のコントロールとセルフタッチ（マスターベーション）の方法
- 3) 健全な性的関係の理解と性的関係において生ずる問題への対処に関するスキル

### 6再発防止グッドライフプラン作成



- 1) 性的問題行動のリスクを増大させる状況と要因の理解
- 2) 包括的で個別的な再発防止計画の作成
- 3) 家族や地域社会へポジティブな貢献を行うための複数の方法の立案
- 4) 人生の短期目標と長期目標の設定と、その達成に向けた計画の作成

## 多摩TS SOTSEC-ID メンズ グループ

2016/2/～2016/8/

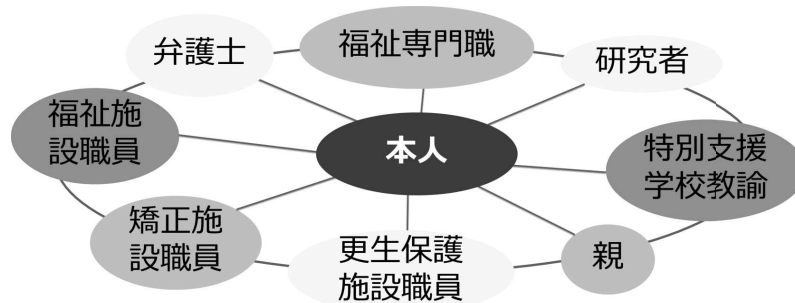
- ・週1回、2時間、6か月、30セッション
- ・知的障害6名 (IQ●～●, 26歳～55歳)





## 多摩SOT FTメンバー

- ・ 特別支援学校や少年院での指導モデル  
→ 個々の対象者に応じてつくるワークセッション
- ・ ワークショップや成人講座で培ったノウハウ  
→ 参加者の主体的学びをつくるアクティブラーニング
- ・ にげない・あきらめない福祉の心意気  
→ 利用者とともに歩む伴走者的支援
- ・ アウトリーチ&インフォーマルアプローチも辞さない専門機関→素早い対応と確かなフォロー



## 多摩メンバー



- A 20代 普通高校卒 手帳無 :
- B 20代 私立サポート校卒 軽度 :
- C 30代 私立サポート校卒 精神 :
- D 30代 特別支援学校卒 軽度 :
- E 40代 特別支援学校卒 軽度 :

## 第9回

これから➡

主にわるかったタッチ

# 自分の行動をみつめよう

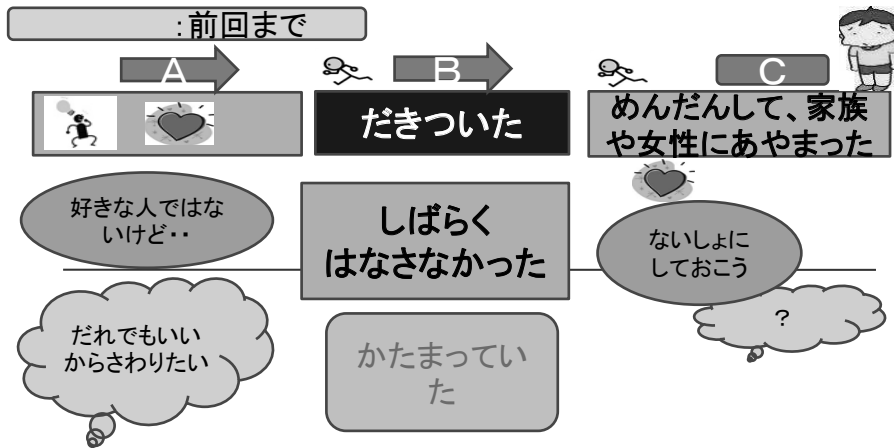
失敗行動(B)を変えるには、(A)を変えて(C)を良くする



その時

良い考えとすてきな感情がついている

## 第〇回



54

## 第〇回

二度と過ちをしないために

### 私の素敵な男プラン

みんなの人生目標

- 転職 ポリッシャーとビルクリーニングの仕事
- ひっこし
- テニススクールに行きたい
- 結婚
- 作業所のしごと
- 一人旅
- そのまま
- 彼女(今は友だちレベル)と結婚



58

### 本人の振り返りーソーシャルスキル

使った時間	／11.8時間
獲得されたスキルや理解度	○メンバーと話ができてうれしかった。一番最初にカミングアウトした勇気。ふざけた話し方ではなくて真面目に大人としての話し方ができるようになった。他人の話が最後まで聞けるようになった。他のことをしなくなった。
難しい点	○最初の頃、人間関係がうまくいかなかったが、今はできるようになった。
コメント	顔つきが凜々しくなった。

# 新潟SOTSEC-ID

STYLISH イケ★メンズ

2017/8/18～2018/9/30

- ・ 隔週1回、2時間、1年間、30セッション
- ・ 知的障害3名 (IQ●～●,16歳～42歳)



## 現在の新潟の活動⇒セルフアドボカシー講座

(竹田、2019)

この講座は、犯罪や危ない行為に及んでしまいそうな当事者を対象にします。しかし、単に「これをしてはダメ」と教える講座ではありません。

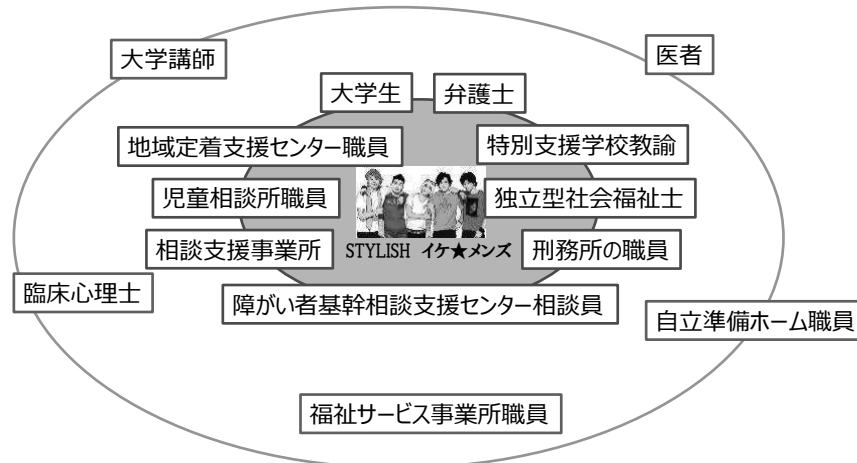
大事なことは、当事者が「自分が楽しく生きていくために守ること」に気づき、それを守るためのスキルを身につけ、進んで実践し、信頼できる人に必要な援助を求めることができるようになることです。

同時に、支援者・保護者の「これまでの当事者への眼差し」を更新し、当事者の可能性や課題を新たに発見することで、これまでの個別支援計画を見直し、個別安全計画を組み込んだ支援に発展させる契機を作り出すことです。

## 専門職団体や様々な相談センターも

(竹田、2019)

- ・ 「新潟県地域定着支援センター」 ※県社会福祉士会が受け皿
  - ・ 「新潟県社会福祉士会権利擁護センターぱあとなお新潟」  
15年前から成年後見制度での専門職後見を担い、県弁護士会、リーガルサポート新潟(司法書士)、専門職の後見支援ネットワークを担ってきた
  - ・ 「新潟県精神保健福祉士協会」  
新潟司法福祉研究会を専門職団体として早くから参画
  - ・ 「パーソナルサポートセンター」  
生活困窮者自立支援制度の下に設立された生活相談窓口
  - ・ 「地域包括支援センター」  
※権利擁護を担う社会福祉士は、県社会福祉士会でサポート
  - ・ 「障がい者基幹相談支援センター」  
障がい版地域包括支援センターとしてシームレスなワンストップ相談
- \* 個々ここに、志のある個人がハブになって繋がっている!



## 新潟メンバー



- Aさん：20代 中等度知的障がいと自閉症スペクトラム
- Bさん：10代 自閉症スペクトラム障害
- Cさん：20代 軽度知的障がいと自閉症スペクトラム、緘黙

## 知らない(未知) → 誤学習 → 必要な学びの機会

(竹田, 2019)

- 自分の体に関わる性について、学ぶ機会がなかった  
⇒性の話を真剣に聞くメンバー
- どうして自分の行動が非難されるか、学ぶ機会がなかった  
⇒被害者・家族の気持ちを知ってショックを受けるメンバー
- どうすれば社会的に認められるか、学ぶ機会がなかった  
⇒性的な行動や怒りなどの衝動のコントロール、周囲との関係の築き方など

◎ 「性」×「犯罪」×「障がい」で、

三重に触れにくさを感じる周囲

学びの機会が得られない状況

★ 「未」学習⇒「誤」学習⇒「新」学習を！

## プログラムによる変化(竹田, 2019)

- ・プログラムの内容の理解  
⇒ふりかえりテストは、3人ともほぼ満点  
(応用力はもう少し伸びる余地あり)
  - ・自分について語るコミュニケーションの促進  
(分からないこと、できないことも語れる)  
⇒Aさんは、当初周囲の発言に追随していたが、後に率先して発言するように  
⇒Bさんは、自分の話を聞いた相手の認知を気にかける場面が増えた  
⇒Cさんは、筆談だが、とにかく説明の分量が増えた
  - ・目指す「イケメン」像のブラッシュアップ
  - ・連帯感からか、他のメンバーを配慮した行動  
⇒他のメンバーの発言を待つ、受け止める、といった行動も出てきた
- ★ 自尊心の向上、対人関係機能の向上が顕著

## 性犯罪トリートメントのむずかしさと課題

－SOTSEC-ID多摩Gなどの実践を経て

1. 「境界」と「同意」の理解がポイントだが、これまで当事者は自分の「境界=他から侵害されない領域」と「同意=自己決定」が尊重される生活を送ってきただろうか？  
⇒当事者の過去の履歴に刻まれた被虐待体験とそれでも生き抜いてきた存在そのものへ敬意をはらうことが出発点。その上で支援者共々「境界と同意」の再学習・再構築をする
2. 「認知の歪み」は、「言い訳」や「ウソ」のことではなく、当事者が長年経験してきた出来事とその理解にもとづく無意識的な反応も含めたスキーマ(自動思考)であれば、これを変えるのはたかだか半年や一年では全く足りない  
⇒かなりの長期的関わりを覚悟し、丁寧にスキーマの組み換えに挑む
3. 「行動のABCモデル」や「4段階モデル」による再発防止策は、短期的には有効だが、長期的な効果は限定的である。  
⇒グッドライフ計画をしっかりと立て、それを着実に実行できるよう環境を整え、支援の輪を広げ・改善し、長期的フォローアップを行う

## V 人垣を創る 各地のTSネット (トラブルシューター)

背景②TS(トラブルシューター) 実践から見てきた課題

## －本人のセルフアドボカシー支援の必要性

### トラブルシューター (TS) ネットワークとは

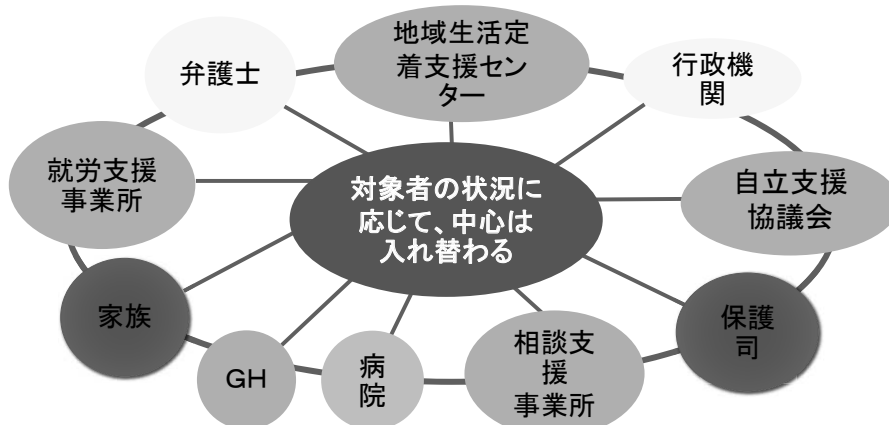
#### ▶目的；

社会から孤立している、あるいはそのために、トラブルや触法行為を犯した知的障害者・高齢者（さまざまな問題行動を抱える人を含む）に対して、地域の支援者、司法関係者、矯正関係者、親、学校関係者、行政等が、ネットワークを組みながら包括的な支援を実施できる体制を創る。

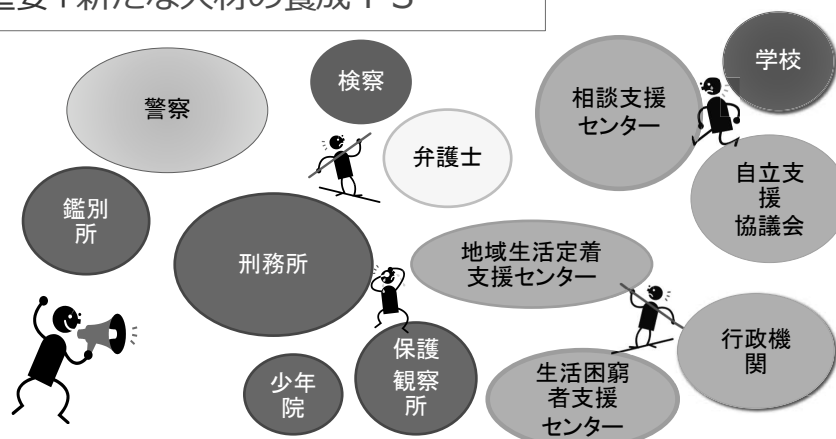
#### ▶活動；包括的な支援基盤の構築を目的にする

- ①包括的な支援基盤およびTS人材養成
- ②地域におけるトラブル予防に向けた取り組み
- ③「入り口支援」
- ④本人支援としての再犯防止プログラム（SOTSEC-ID）実施と支援者養成

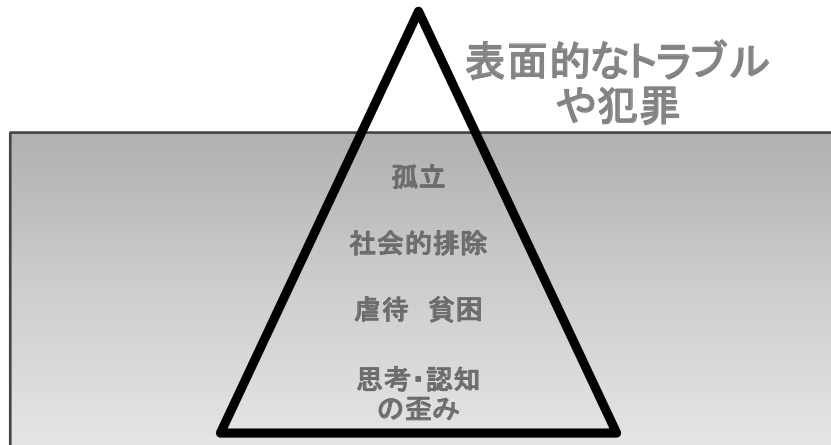
### TS構築に向けて－1 ネットワークによる支援（ハブとスポークモデル）



### TS構築に向けて－2 機関・分野をつなぎ、地域を耕すことが重要+新たな人材の養成TS



### T S構築に向けてー 3 対象者の理解（冰山モデル）



### T S構築にむけてー 4 社会的トラブルや犯罪行為の理解 (生物・心理・社会モデル／B P Sモデル)

- 個人内因子
  - ・生物的要因（障がい特性、気質等）
  - ・心理的要因（不安、葛藤、欲求等の本人の認知、感情）
- 環境因子
  - ・社会的要因（家族、職場、友人等本人を取り巻く環境）
- 障がいがある人の場合、複合的な要因の影響が深刻化しやすい

個人内因子の影響が強いほど、環境調整だけでは問題解決が困難で、専門的支援・学習プログラムが必要  
丁寧なアセスメント→セルフアドボカシー学習支援

### T S構築に向けてー 6 包括的なネットワーク 燃え尽きない支援のために

- 本人支援には、息の長い支援が必要
- 本人の望む支援と支援者の提案する支援  
支援者との適切な関係性の前提  
(愛着障害、学習性無力感等)
- 再トラブルもあり得る  
(施設よりGH、GHよりアパート独居と、自由度が高い支援の方がリスクは高い)
- アセスメント→プランニング→セルフアドボカシー学習の機会  
→支援の実施→モニタリング
- 支援機関、担当者の連携、変更もあり得る

本人の強みを活かし、トラブル・犯罪をしないで地域生活を楽しむことを知ってもらうことが、結果的に再犯防止につながる  
(ストレングスモデル、グッド・ライブズ・モデルの視点)

# 武蔵野TSでのプログラム展開のために

「生きづらさを感じている知的障害・発達障害のある人の支援」を  
地域ベース&多職種連携ベースで進めていくために





## 【閉会挨拶】

全国地域生活定着支援センター協議会 関東・甲信越ブロック

ブロック長 高津 努

# 全国地域生活定着支援センター協議会 関東甲信越ブロック研修

令和元年11月7日(木)

一般社団法人 全国地域生活定着支援協議会  
関東ブロック長  
群馬県地域生活定着支援センター  
高津 努

## 本人の問題なのか？社会の問題なのか？

逮捕されて釈放された方  
刑務所出所した方

どこかに相談すれば  
住む場所を確保できるか

### ① 役所に相談

アパートを借りていただければ生活保護申請  
民業圧迫になるためアパートのあっせんはできない

### ② アパート借りるには～

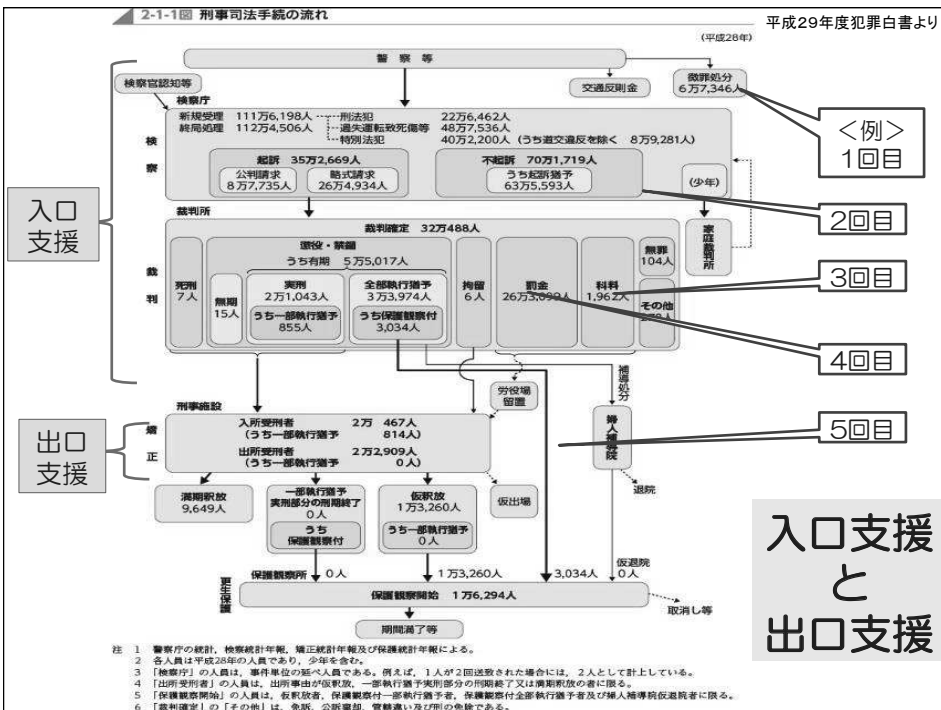
生活保護が決定していればアパートを貸せる  
保証人がいなければ 保証人協会も借金も利用できない  
緊急連絡先が必要(行政は連絡先になれない)

### ③ 施設利用するには～

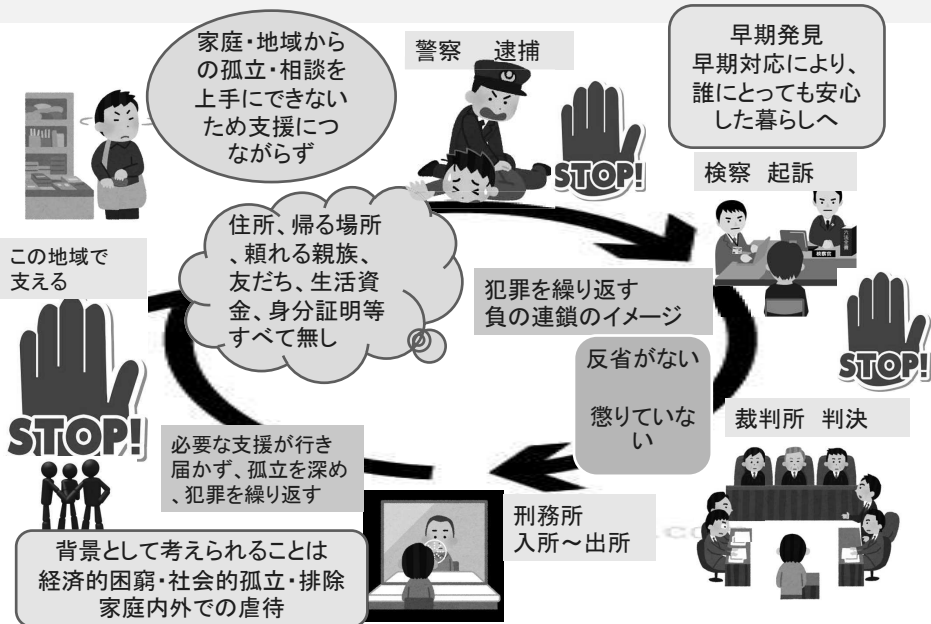
障害手帳や介護認定がないと利用できない

昔の職場  
昔の仲間  
刑務所仲間

結果、福祉サービスを利用することができず、最終的に行き着く場所が法務省の管轄、更生保護施設・自立準備ホーム(更生緊急保護)  
⇒更生保護施設利用後、また役所の相談から始まり必要なサービスにつながらない。高齢者や障害者を更生保護施設で引き受けていただけるようになったため自力で住む場所を確保できない方が多い



# どこかで必要な支援につながれば・・・



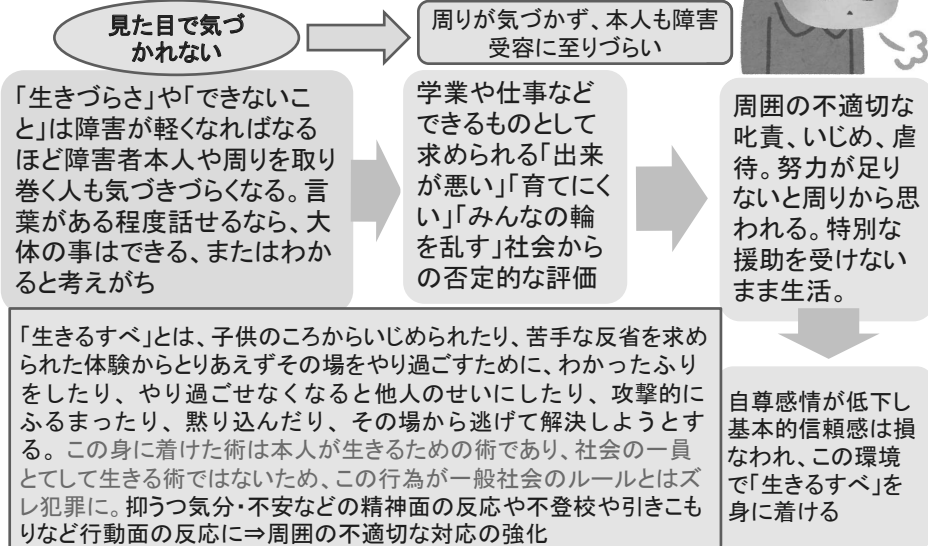
## 刑務所の生活と地域での生活

矯正施設	社会生活
<p>刑事処分・保護処分 決められた生活 決められた日課</p> <p>刑務所での生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食事・医療に困らない</li> <li>○ 何歳になっても仕事がある</li> <li>○ 自ら判断の機会は少ない</li> <li>○ 刺激・情報が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用契約</li> <li>○ 自分が希望する暮らし</li> <li>○ 自分で選択する</li> <li>○ 自分で購入・自己決定</li> <li>○ 情報集め、自分から相談</li> <li>○ 年齢とともに働く場は激減</li> <li>○ 刺激・情報が多い</li> </ul> <p>地域での暮らし</p>

- ① 社会からの隔離による社会や周囲の人々との関係性の変化。家族や友人とのつながりが切れる・希薄になる、住民票の職権消除等（社会に生きる人・社会サービスからの断絶）
- ② 拘禁により受刑者が社会生活に適応する力を失い社会参加が困難に
- ③ 自分の気持ちを伝えるためのコミュニケーションスキルの低下
- ④ 「刑務所に入ること」「犯罪」する抵抗感が薄れる
- ⑤ 刑務所医療・福祉・介護サービスの量的・質的不十分による健康状態・要介護状態の悪化

## 犯罪にどうして至るのか

知的障害・発達障害の軽度の方の成長過程を想像してください



# 福祉事業所における関係性の支援

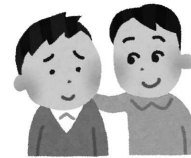
矯正施設への再入所率は定着センターが支援し約7.8%へ

	矯正統計2012年「再入 受刑者前刑出所年 再入状 況 (全受刑者)」	定着センターアンケート (高齢・障害者のみ) H21.7~H25.9の4年間
平成21年に出所し、そ の後4年間に再入所	36.0%(30213名中、 10871人が再入所)	7.898%(1836人中、 145人が再入所)

なぜ、再入所率は下がったのか



それは、関わる方々の対応が、今まで出会った方と  
違う福祉施設や事業所が対等な関係であり安心感に



〇「問題」になっていることと直接は関係なくても、周囲の理解や受容を高めたことで、本人の問題は解決したわけではないのに、本人の暮らしやすさ全般が向上することで、いつの間にか問題が軽減/消失していることがある「福祉の支援がこれにあたるのではないか」このことは施設だけでなく、地域で暮らしていても同じことが言える失敗が許される環境、見放さない支援者や仲間の存在が大切

## 罪を犯した高齢者・障害者への包括的福祉の支援と対象者の満足度に関する調査

(全国地域生活支援協議会アンケートH28年度)

全国の地域生活定着支援センターより100名の対象者から定着支援センターの支援を通して福祉支援を受けての満足度を調査した。

A・定着支援センターの支援で一番気に入ったことは

- 1、「相談にのってもらえることや親切に聞いてくれる」43名
- 2、「住む場所、お金や身の回りの物等を準備してもらえた」32名  
※現実的な部室的支援以上に人的支援を重要視している

B・今まで一番つらかったこと

1. 「矯正施設での生活」25名
2. 「社会や家族から孤立していたこと」23名  
※矯正施設よりも地域社会での生活のほうがつらかったと答える方が多い

C・矯正施設入所前に生活の相談をどこにしたか

「相談するところがあることを知らない・相談の仕方がわからない」56名

※相談する内容を整理できない、できてもどこに相談していいかわからない

相談機関による丁寧な説明や相談に至る以前のアウトリーチ機能強化の必要性

社会的に弱い立場の高齢者や障害者は地域社会から孤立すると、社会からの疎外感に加え相談することから遠ざかる対象者が多い結果だった。



相談できる方は、相談して解決した経験がある方

## 支援者の常識を押し付けない想像の大切さ

〇対象者の立場に立って物事を考えてみてください

もし自分が対象者と同じ経験を経てきて、その状況に  
自分はどう反応するかを想像する

(対象者が見て、感じて、認識している生活

→この方は過去の経験から、このような感じ方、考え方の癖がある)

〇支援者の価値観、常識、物差しを対象者に押し付けない

支援者にとってきれいでないケースでも対象者が楽しく、少し困りながらも暮らせているのはありだと思おう

〇今までと違った考え方や判断、行動に至ることが、心地いいと本人が腑に落ちる過程をサポートする。そのためには対象者に変化を求める前に支援者が対応、声掛けを変えることも大切

〇良好な人間関係が「福祉」＝「幸せ」本人が納得した生き方へ

〇支援が「思い出づくり」に、支配関係・上下関係でない「出会い」に

〇関わることで、その人が以前よりも「少し良かった」「なんか楽しい」と思える生活をめざす

〇自分の支援を振り返る、正しかったのか考える姿勢



一般社団法人 全国地域生活定着支援センター協議会

関東・甲信越ブロック研修会

**「やり直しができる社会を目指して」**

**～福祉と司法が手を携えて～**

**第2分科会**

**支援プロセスの中から支援のヒントを探る**

開催日：2019年11月8日（金）

会場：長野市生涯学習センター

**令和元年度厚生労働省社会福祉推進事業**

# 受け入れ・役割・課題

かなやま青年寮の実践報告

令和元年度 関東甲信越ブロック

「支援プロセスの中から支援のヒントを探る」第2分科会

太田市 市役所から南方を望む



## 社会福祉法人太田松翠会 かなやま青年寮の概要

宿泊型自立訓練事業(平成21年4月より通勤寮から移行)

所在地:群馬県太田市高林北町1027-2

富士重工(スバル)の城下町 人口約22万人

定員:20名

(現在9名:男性3名、女性6名 ※令和元年10月現在)

職員:施設長、地域移行支援員2名、生活支援員2名

夜間支援員2名、調理員

### 宿泊型自立訓練事業とは

- ・知的障害又は精神障害を有する障害者につき、居室その他の設備を利用させるとともに、家事等の日常生活能力を向上させるための支援、生活等に関する相談及び助言その他の必要な支援。
- ・標準利用期間は2年もしくは3年の有期限での利用。  
市町村の判断により更新利用が可能。
- ・通勤寮からの移行事業先として選択したところが多い。
- ・平成31年4月の日本知的障害者福祉協会登録数は28事業所

## 方針

- かなやま青年寮を必要としている人たちは、障害の程度や種別だけでなく、性格、年齢、性別、育った環境など一人として同じ人はいません。だから私たちはいつも一人ひとりに対して必要な支援を作っていかなければいけません。我々がやるべきことは何なのか、今やっていることはその目標に合っているか、どうすればできるのかを常に考え続け“行動する”ことで障害を持つ方たちへの支援にあたり、その人にとって何が本当のニーズなのかを様々な手法を用いて探り、必要な支援計画を作りあげる事で自律した生活を継続できるよう地域資源に引き継いでいく事に重点を置いた事業所を目指します。

## 職員行動指針

- (1) 利用者の権利を奪うような事を行ってはいけない。
- (2) 既成概念にとらわれ、最良の手段を取れない状態になってはいけない。
- (3) 多様性を排除してはいけない。
- (4) 各種障害者支援技術向上にむけ、学習・思考・工夫を怠ってはいけない。



## 定着支援センターからの受け入れ状況

- AA: 賽銭泥棒
- BB: 家族への暴行
- CC1回目: 車上荒らし
- DD: 窃盗、詐欺
- EE: 家族への暴行
- FF: 窃盗
- GG: 賽銭泥棒
- HH: 詐欺
- CC2回目: 窃盗
- II: 放火
- CC3回目: 窃盗
- JJ: 詐欺

## AA: 賽銭泥棒

- 攻撃的、反抗的な性格
- 母親と二人暮らし、不仲。
- 生活保護費での生活、無職。
- 私は出来る、職員が悪い。
- 想像すると、悪いことの指摘・注意を受け続ける生活。
- 地元に戻りたい、就職したいという目標の共有。
- 太田市で生きる覚悟。⇒太田市のGHへ入居。

## BB: 家族への暴行

- 家族のお荷物、姉との不仲。
- 一応働いた経歴があるが、長続きしていない。福祉サービスも転々としている。
- 矯正施設から入所施設へSS、その間に青年寮を体験し選んでもらった。
- 温和、協調性あり。
- パチンコ再開、お金への執着。
- 万引きしても警察に怒られるが施設に帰れるという誤学習。退所。
- 地元へ帰り仲間と過ごすようになり大きな問題も聞かれず過ごしていたようだ。

## CC1回目: 車上荒らし CC2回目: 窃盗 CC3回目: 窃盗

- 典型的な発達障害
- 矯正施設と地域生活との繰り返し。
- やり直しはきかない、失敗したら逃げることでその問題を解決する。
- 2回目の利用: やり直しはきかないから、間違いを起こしてはいけない。
- 結局万引きで捕まってしまったが、捕まった時は、反省よりも出所時の事が中心。
- 3回目の利用: 社会とは簡単にやり直しがきくものと言う理解? だがやり直すためにはというところにつながっていない。

## DD: 窃盗、詐欺

- 統合失調症⇒発達障害⇒2次障害としてのパーソナリティー障害
- 精神科入院中のトラブルから逃げるために沖縄へ逃亡
- 沖縄警察への苦情を言い、太田警察へタクシーで乗りつけ無賃乗車で捕まる
- 普段は紳士、豹変する性格。
- 本人が過ごしやすく、プレッシャーを与えない生活を提供。をしていたつもりになってしまっていた。
- 今までと違う犯罪を起こして受刑(想定外)

## EE: 家族への暴行

- ウイルス性脳炎からてんかん発作発症 高次脳機能障害か？
- 母親と共依存、兄にも発達傾向が見えた。
- 短期記憶が苦手、昔のことは饒舌に話をする。
- 自分の非は認められない。イエスとノーを明確にしない。
- 攻撃は最大の防御。トラブルになった相手は覚えており、なんだか分からないが攻撃の対象になってしまう。

## FF: 窃盗

- 高次脳機能障害？認知症？発達障害？3人格ぐらいある??
- 性格は温和、急変し激高。
- 高校卒業後、職を転々とした後に、無職ホームレス生活となる。
- 相談に来るが言葉が食い違い会話が成立しない。
- 月日が過ぎ、周りの状況から自分の将来の状況も見えてくる。安定。
- 不安を取り除く支援。

## GG: 賽銭泥棒

- 激しい生い立ち、父親から間違った生き方を教わった
- 「なんで僕は禁治産者になれなかったんですかね～」
- 「万引きはしないで…、賽銭盗めば買えますから」
- 理由があれば悪地も正当化される。
- 極端な発達障害。
- 数々の誤学習の集合体。
- 成功と失敗をわかりやすく、トークンを用いての学習。

## HH:詐欺

- 自発的なコミュニケーションは苦手。
- 性格温和と言われるがまま。
- 勧められてお薬も使用、自分に合わないから止めた。
- イオンモールで昔の仲間に借金の返済を迫られる。生活保護費から4万円返済してしまっている、借りたのは3万、1万は利子だとか。
- 仕事できます、評価されています。

## II:放火

- 少年院からの利用
- 幼少期に母親から万引きや借金をして来いと言われて育つ
- やんちゃな風貌だが甘えん坊 職員と庭でキャッチボールをする事が安心材料
- 愛着障害の傾向強い
- 最後は支援者以上の支援者が現れて本人を連れて行ってしまった。

## JJ: 詐欺

- せっかちでせっかちでせっかちで
- IQは高く、92
- 常習累犯窃盗、詐欺を多数、たまに暴行あり。
- 自分の失敗、他人の失敗を許せない。
- 時間をおくと振り返りが出来るので再チャレンジが可。

## かなやま青年寮でやってきたこと

- 見立て  
利用開始時は、事前の情報から環境面の調整だけしか出来ない。  
生活を通して、もしくは専門機関に協力してもらい本人の障害特性を探ってきた。  
本人がどの部分で折り合いをつけられるのか、そのポイントを知りたい。  
見立てができていれば、地域移行時に新たな支援者に引き継ぐことが出来る。
- 人作り  
支援者と本人との関係作りから始める、本人と向き合う。  
相手もこちらを向いてくれるようになるまで何度でも。  
キーパーソンになれた時、そこから人作りがやっと始められる。

## 受け入れ時の他機関との役割分担

地域定着支援センター  
相談支援事業所  
市町村福祉行政（障害・生保）  
精神科病院  
発達障害者支援センター  
保護観察所 保護司  
保護者  
その他諸々

## 利用者の課題整理

- 本人の課題：環境的な問題、もしくは内面的な問題
- 住む場所がない：保護者との断絶、拒否
- 適切な支援が無い：保護者との断絶、拒否 福祉との接点がなかった
- お金がない：所持金が無い、収入の目途が立っていない
- 仕事が無い：クローズ又はオープン 本人の働く力の課題もあり

## 受け入れ施設の課題整理

- 以前の生活状況や詳しい犯罪歴、障害特性等の資料が無い

初めて福祉と関わる方が多い

アセスメントの完成までに時間がかかりすぎてしまう

本人の本当の姿が見えて来た時には利用期間が少なくなってしまう(3年でも短すぎる)

出来れば、矯正施設まで足を運び、事前に面会などをしてアセスメントを始めた方が良かった。

- 支援方針のぶれ

再犯防止を意識すると抑制傾向になってしまう

障害特性にアプローチすることにより再犯から遠ざけることは出来るが

その障害特性の理解までに時間がかかってしまう

発達障害やパーソナリティ領域の方が多く、専門的なアプローチが必要。

ご清聴ありがとうございました

かなやま青年寮

茂木 普照



# 全国地域生活定着支援センター協議会 関東・甲信越ブロック2019年度専門研修会大会

～支援のプロセスの中からヒントを探る～

山梨県社会福祉法人 三富福社会  
サポートセンターハロハロ 相談支援部管理者 服部敏寛

## 社会福祉法人三富福社会の紹介



計画相談（特定事業所Ⅲ型）  
山梨市委託相談・ピアサポーター事業  
地域相談（移行相談・定着相談）  
山梨県相談支援体制整備事業（県委託）  
山梨県地域療育等支援事業（県委託）  
自立生活援助事業

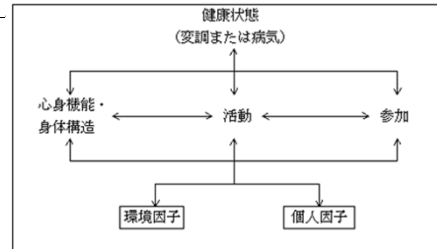
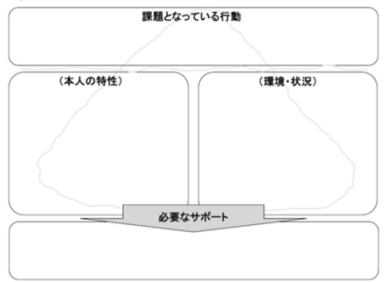


## 相談支援専門員として心掛けている事

### 【基本は社会モデル】

- 本人が自分らしく生活し続ける事が出来るように環境（相談員・支援者も含む）を整えていく
- \* 医療とも適切に連携すると共に同じ視点で話し合いを続けていく

氷山モデル



### 【課題となる行動があっても…】

- 課題行動にだけ視点を向けるのではなく、水面下をアセスメントし、環境・状況に適切にアプローチする
- 行動障害もコミュニケーション機能を持っている。行動分析を行い想いを言語化していく

## 相談支援専門員として心掛けている事

### 【ストレングスモデル】

- 本人はもともと力（強み）を持っている
- ストレングスモデルの事例検討を支援チームで実施し、強みと支援の方向性をチームで共有する
- 過去の支援者も出来る限り巻き込んで実施していく



### 【多角的なアセスメント】

- 言葉を持たない相談者の過去をネットワークとフットワークを駆使してアセスメント
- 過去の物語を読み込み未来図を作成
- 強み・経験・親の想い・諦めてしまった昔の夢
- 相談者を見る目に奥行きが持てるように…

## 事例①Wさんの人物像（H24当時）

43歳男性 身体障害者手帳を保持（4年前に脳梗塞左・右）  
 両側に麻痺（歩行可能・細かな手の動き不可）  
 左肩骨折（2年前）の後遺症で左腕はほとんど動かない  
 重度の言語障害と高次脳機能障害の疑い（易怒性・固執性）  
 アルコール、薬物依存、かなりの偏食等々…



障がいを負ってからは母親と二人で生活保護を受けながら暮らしていた。通所授産施設に通っていたが、左肩を骨折してからは休みがちとなり1年前に窃盗の罪で服役。服役中に唯一の身寄りである母親が亡くなり、生活保護も打ち切られ、借りていた市営住宅も明け渡さなければならなくなり、住所が…

平成24年11月に満期出所

## 支援者の基本的な姿勢

- 思い出したくない過去の事には触れることなく支援します。また、罪を犯してしまったのは、「生活のしづらさ（特別なニーズ）」に応じたケア・環境調整が行われていなかったからです。ミスポジションはどこにあったのか見極め、特別なニーズを整理します。
- 現在43歳です。これまで様々な経験を積んできている年長者（ほとんどの職員より）です。当然の礼儀を持って接することを忘れないでください。
- 脳梗塞による身体機能障害以外に、高次脳機能障害の可能性もあります。つまり環境調整や介護だけでなく、様々な生活場面で支援が必要となります。表面的に見えてこない特別なニーズをアセスメントしていきます。
- 脳梗塞による中途障がいであり、高次脳機能障害の可能性があるとすると、健康な頃のイメージが先行し、物事に対する固執に繋がりが融通が利かなくなっている可能性があります。しかし、簡単に否定するのではなく、実体験を通して気づいてもらうという姿勢が支援者に必要となってきます。

基本的な姿勢を法人  
 全体で共有して…



・生活課題のアセスメントと同時にニーズアセスメント（自己実現にむけての…）を行っていく事になります。言語障害があり、想いを伝えることに対して苦手意識を持っている可能性があります。ちょっとした表情の変化にヒントがあることも・・・。

・金銭管理、服薬管理、栄養管理、嗜好品管理（飲酒・喫煙）には支援が必要となってきます。自分自身のイメージ像と現実との間にずれが大きいことが予想されるため、これらの支援はストレスとなります。だからこそニーズアセスメントが重要となってきます。

・これからの生活イメージは本人にも私たち支援者にもはっきりできていないのが現状です。一緒に生活課題を整理し、伴走しながら一緒に作り上げていきます。

・家族を失い、仲間を失い、家も失ってしまいました。自暴自棄になってしまってもおかしくない現状です。私たちも健康的に生きていくためには、自分の社会的な役割が必要が必要です。それを一緒に探していく支援です。

・人間には自分の事を心から心配してくれる他者が必要です。今の彼には誰もいません。私たちが彼にとってそのような存在になることが目標です。

ハロハロ相談支援部「からりと」

基本的な姿勢を法人  
全体で共有して…



ハロハロ相談支援部「からりと」  
服部敏寛からのお願いです

一 健康管理をさせていただきます  
・栄養管理された食事を食べていただきます  
・煙草は吸い過ぎないように・・・  
・お酒も極力控えめに・・・

二 金銭管理をさせていただきます  
・話し合いながら使しましょう・・・

三 安全管理をさせていただきます  
・自転車の利用には生活区の許可が必要です  
・門限も設定させていただきます

四 ハロハロ相談支援部「からりと」全員  
で夢の実現のお手伝いをさせていただきます

服部 敏寛

拝啓 様

明日の20日、しらかばホームで新しい生活を始めてから初めての自由外出を楽しまれると伺っております。ゆつくり温泉・サウナを楽しんでいただきたいと願っています。

が・・・しかし・・・初めての場所からの移動となりますし、雷もまだまだあるし、不測の事態が起こることも十分に予想されます。

重大な事故等課題が生まれると今後の自由外出の実現が危ぶまれてしまうかもしれません。

何か困ったことが起きましたら必ず…必ず服部まで連絡をいただきたいです。問題を一緒に解決させていただきます。私の名刺も添付しておきます。財布に入れておいていただけると助かります。

明日の外出楽しめることをハロハロ相談支援部「からりと」全員で願っています。

服部携帯：090-7238-0444

地域生活移行スター  
ト！



## エピソードを重ねるたびに 信頼関係が構築されていく



- 入院手術の度に意思確認！
- 実現可能性が低い要望が少しずつ本当のニーズに代わっていく  
(一人暮らし→もう少し静かな場所 就職したい→自分の畑を持ちたい！)
- 養護施設からの入居者には父親のように…
- 定着支援センターからの二人目の依頼者には仲間のように…
- 知的障害者施設の理不尽さを言葉にし、話し合って折り合いをつけていく



## 事例②Yさんの人物像 (H27当時)

60歳男性 出所後療育手帳を取得（地域生活定着支援センター）  
家庭環境に恵まれず学校に行っていなかったため読み書きはできない  
対人関係を構築するのが苦手で、大声を出して威嚇してしまう  
これまでに窃盗罪で3回服役している



両親が亡くなってからはおそらく知的障害を持つであろう兄と二人で暮らしていた。兄の老齢年金で生活していたが、現金でお金を渡してしまうとすぐに煙草とお酒に使ってしまうので、民生委員さんがお金を管理し、お米等を購入して現物支給していた。軽微な万引きで服役中に大雪で自宅がつぶれ兄が死去。自宅も住める状態ではなく天涯孤独となってしまった。

平成27年 3月に満期出所

## 集団生活（知的障害者との）の困難さ…



・Wさんは二ヶ月は入所施設での生活、YさんはWさんの例もあったため翌日からはグループホームでの生活となった

・一ヶ月ほどは落ち着いて生活できていたものの、他の利用者さんの理不尽な行動、管理的な支援に対して粗暴な言動が目立ち始めた（手を出すことは無い）

- ・一旦入所施設に引き上げ相談支援専門員及び山梨定着の相談員と面接を行う
- ・おそらく何度も人に騙される経験をしてきたのか、つぶれてしまった自宅の売買に関する疑心暗鬼が生じ、色々納得していただくのに時間はかかった（彼の行動の裏側には不安が大きく関与している事も分かった）
- ・一週間ほど入所施設で生活した後グループホームでの生活を開始したのだが…



## 残念ながら二人同時期に再犯・・・

駅の近くのドラッグストアで万引き…

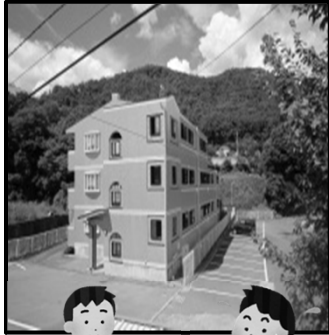


GH近くの寺院で賽銭を…





## YさんのGHサテライト部屋の 利用開始！（2年間）



- ・グループホームの裏にあるアパートの一室がサテライト部屋となっており、そこでの生活をスタート（夕食はGHで提供）
- ・バスを利用してスーパーに行き、朝食の食材を買う練習（練習するとすぐに出来るように…）
- ・朝食の作り方とご飯の冷凍保存の仕方を練習
- ・掃除、洗濯等家事の練習（意外と綺麗好き）
- ・適度な距離感の中で不安なく生活していただく

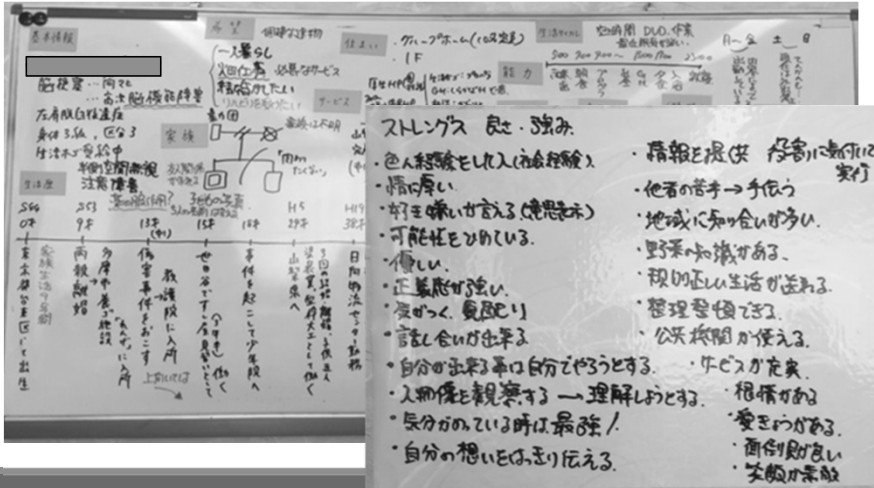
## 4月～市営住宅での一人暮らし開始！



- ・行政、後見人と協議を重ね、一人暮らしにチャレンジする事に！
- ・行政にも協力していただき、連帯保証人が居なくても、法人がバックアップするという念書を用意する事で借りる事ができた
- ・自立生活援助で定期的に私たちが訪問し
- ・農福連携で毎日桃畑、葡萄畑で働く生活に！
- ・近々後見人を社会福祉協議会に変更予定！



# 一年半の服役で身体機能が低下…体が思うように動かない…



- 彼のこれまでの人生を皆で再度読み込み…
- 彼の強みを皆で再確認
- 行政も交えて意思決定支援会議の開催！
- サテライト部屋の利用開始！

# 現在ヘルパー（身体介護）を利用しながら一人暮らし体験！9月～

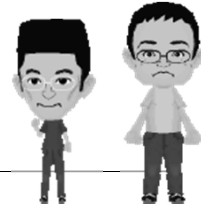


サービス等利用計画					
計画書作成日	計画書区分	区分ID	施設名称	利用形態	備考
2019年9月	地域福祉サービス等利用計画	04	サテライト部屋	一人暮らし	
利用希望する者の生活に資する事項（希望する生活）	・一人暮らしがしたい ・サテライト部屋で自分らしく生活する				
【総合的支援の方向性】	・生活の安定・健康維持のサポート ・社会参加の促進 ・生活の質の向上				
1	生活の安定	100	ヘルパーによる生活支援	生活の安定	生活の安定
1	生活の質の向上	100	ヘルパーによる生活支援	生活の質の向上	生活の質の向上
1	社会参加	100	ヘルパーによる生活支援	社会参加	社会参加
3	自立支援	100	ヘルパーによる生活支援	自立支援	自立支援

- 先日腸閉塞で救急車で運ばれたが“GHには戻らない”という強い意志（意地）！
- 一人暮らしが出来て、畑仕事が出来て、たまに祭りに行けて、酒が飲めて…それでいい！
- 出来れば4回目の結婚を目指したい！



# 日本知的障害者福祉協会 調査・研究委員会報告



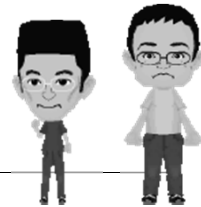
## ・ 触法障害者への支援で「有効だった支援」について

分類	事業所数
①チーム支援	13
②本人への個別の支援	7
③（障害）特性に応じた支援	3
④環境の調整・支援	4
⑤スタッフの研修	2
▲対応が困難	3

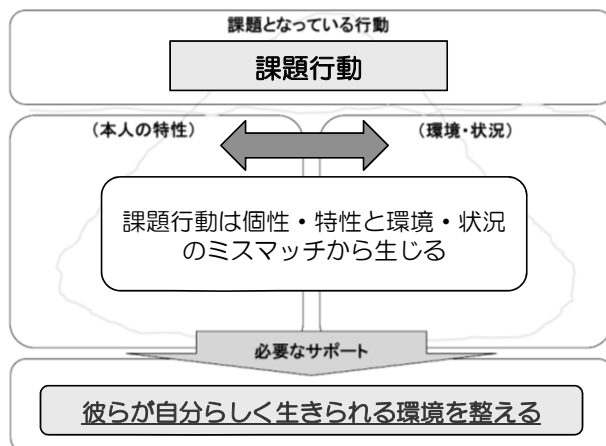
・「有効だった支援」は、「チーム支援」や「本人への個別支援」についての記述が多かった。事業所だけで問題を抱えるのではなく、常に連携して情報を共有しながらチームで統一した支援を行うことや個人に即した支援を行うことが有効であったようだ。一方で、「重度・高齢化の当施設の利用者とのプログラムに違いがありすぎ、特別な支援プログラムも困難」

・「個別プログラムを作成するが、本人の記録が見られず難しいケースになっている」「障がい特性による部分が大きく、支援に苦慮しています」など、具体的な支援に苦慮している記述もあった。触法障害者の受け入れは、障害程度が他の利用者と違うことが多く、記述からも事業所内では、個別の対応に工夫が必要であることが伺える。

## ～支援のプロセスから ヒントを探る～



### 氷山モデル



・課題行動は本人の**特性と環境・状況のミスマッチ**から生じる事の確認（生活モデルで！）

・彼らの人生、これまでの物語に興味を持ち、理解し、**強み（ストレングス）を確認**する

・**対等の立場（支援者癖の確認）**で寄り添い関係性を構築する

・**チームアプローチ**を心掛ける（多職種連携！）

全国地域生活定着支援センター協議会  
関東甲信越ブロック研修

## 『支援プロセスの中から支援のヒントを探る』 ～地域生活定着支援センターの支援から～



公益社団法人 新潟県社会福祉士会  
新潟県地域生活定着支援センター  
センター長 本多 崇人

### ◎新潟県地域生活定着支援センターの概要

受託先:公益社団法人 新潟県社会福祉士会

所在地:新潟市中央区上所2-2-2新潟ユニソンプラザ3階

職員体制:相談員3名(センター長含む)

事務員2名(会の事務と兼務)



新潟県地域生活定着支援センターは平成24年3月に設置  
本多は社会福祉法人吉田福祉会から出向  
坂井は社会福祉法人太陽福祉会から出向



相談員は奥の左から坂井・本多・平栗

## ◎新潟県の紹介



人口 224万人：H30.10.1現在  
(うち新潟市80万人)

面積 12,584.15km<sup>2</sup>(全国5位)

### 矯正施設等

新潟刑務所、新潟少年学院、  
長岡・上越・佐渡拘置所、  
新潟少年鑑別所など

### 指定更生保護施設

・川岸寮(新潟市)

### 自立準備ホーム

・ほとんど新潟市内

## ◎新潟定着の基本方針

- 信頼して相談できる関係づくり
- 安心して過ごせる場所
- 正しいことを学べる
- 自己肯定感を高める支援
- リスク回避のためのアセスメントと環境づくり
- ストレngthsをいかした支援
- 真のニーズのアセスメントと真のニーズに沿った支援

## ◎アセスメント

### ◆アセスメントとは？

- ・情報収集し、評価、分析、解釈する。

見立て

### ◆ツールとして

《エコロジカルモデル》

《バイオ・サイコ・ソーシャルモデル(生物的・心理的・社会的)》

《システム論》

## ◎アセスメント

### ◆犯罪に至った背景は？

なぜ、犯罪行為に至ったのか？その背景に目を向ける！  
(社会的孤立や生きづらさ)

- ・生活困窮
- ・就労(仕事がない、続かない、働けないなど)
- ・認知症(認知機能の低下、記憶障害など)
- ・障がい(金銭管理、コミュニケーションが苦手、先の見通しが立てられない、衝動性、受容なし、未学習、誤学習、愛着、2次障がいなど)
- ・精神疾患(通院や服薬管理ができていない、ストレス、不安など)
- ・孤立(相談者不在、家族支援なし。近所づきあいなし、医療・福祉につながないなど)
- ・社会の変化によるもの(家族・隣近所の関係性が希薄化、不景気、8050問題、9060問題)
- ・生活環境(いじめ、虐待、ひどく怒られた経験、誤った養育や支援など)

## ◎アセスメント（課題）

・定着のソーシャルワーカーの力量

・アセスメントの限界

・矯正施設という枠の中

出所後に  
再アセスメントが必要

## ◎事 例

### 《基本情報》

Kさん 男性 74歳

要支援2

歩行:歩行器

物忘れ:年相応

判断能力:あり

コミュニケーション:できる

排泄:概ね自立だが、間に合わないことがあり、紙パンツ

入浴:一部介助

金銭管理:一部介助

## 《生活歴》

中学卒業後、実家の農業、冬は造り酒屋で稼働

19歳 土工として5年間稼働

22歳 窃盗 懲役1年 執行猶予3年(経過)

23歳 結婚

26歳 放火 懲役4年

30歳 土工として28年間稼働

58歳 窃盗 懲役1年 執行猶予3年(取消) 懲役6月

59歳 妻と離婚し、ホームレス生活

61歳 窃盗 懲役1年2月

63歳 占有離脱物横領、常習累犯窃盗 懲役2年4月

66歳 占有離脱物横領 懲役8月

67歳 常習累犯窃盗など 懲役3年

70歳 特別調整1回目

72歳 常習累犯窃盗 懲役3年

74歳 特別調整2回目

## ◎特別調整1回目

### 《高齢者専用賃貸住宅＋小規模多機能センター》1カ所目

⇒サービスは入浴介助、外出支援

#### ◆入居後の様子と経過

・外出したい、上越高田の花見に行きたいなど様々な要望

⇒施設職員は手が足りないので無理、一人での外出禁止など管理的な支援。買い物はたまに定着と一緒にしていた。

・無断外出、施設職員との関係悪化

⇒職員より「出て行ってほしい」と希望ある。本人も「こんな自由がないところは出ていきたい」と希望あり、引っ越すことに。

### 《食事付き賃貸住宅》2カ所目

#### ◆入居後の様子と経過

・金銭管理は施設。買い物はタクシー。基本、自由に過ごしている。

⇒最初の施設と違い、放任主義。 1ヶ月後、再犯。

## ◎特別調整2回目

### ○前回の支援について

- ・最初の施設は利用者と口喧嘩をしたことと、職員に上越への旅行を反対されたことが原因で出た。
- ・次の施設では上越は駄目とは言われなかったが、迷惑かけてはいけないと思い我慢した。
- ・お金は管理されていたが、特に説明はなく不安はあった。
- ・金に困っていたわけではないがスーパーに行った際自転車のかごに財布を見つけてパンパンに膨らんでいたためついってしまった。カメラに写っていて捕まった。刑務所に戻りたくはなかったが、見つからないと思ってってしまった。

### ○今後の生活について

- ・年一回、花見の時期に上越高田へ行きたい。
- ・部屋は個室がいい。
- ・買い物を楽しみたい。
- ・人と関わるのが苦手なので、デイサービスはできれば行きたくない。



## ◎犯罪行為に至った背景

### 《生活歴より》

- ・若い頃はカッとなりやすく、衝動的に行動していた。26歳の放火も隣人に妻の悪口を言われて、カッとなり火をつけたと話している。
- ・これまで妻に生活を支えられてきたが、妻と離婚後、自身一人では生活を再建することができず、刑務所に行ったり来たりの生活。
- ・自転車泥棒はその時の思いつきで…。

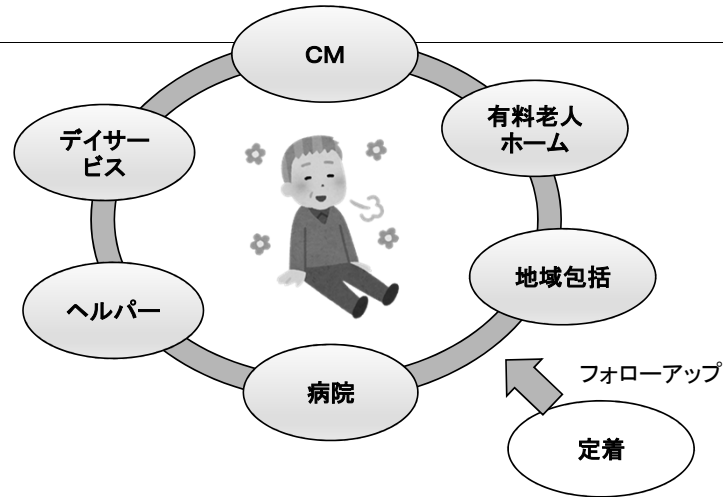
⇒診断はないがこれまでの生活から発達障害が疑われる…。

### 《特別調整一回目の支援より》

- ・福祉的な支援というよりも管理的な支援(再犯防止の意識が高い)
- ・職員との信頼関係が不足
- ・本人のニーズ(求めている生活)に添った支援ができていない。



## ◎調整結果



## ◎安定した生活が送られている理由

### 1 それぞれの変化

・本人、地域、定着

### 2 ニーズの充足

・買い物を楽しみたい、カラオケがしたい、高田公園の花見(スナックのママ)に行きたいなど

本人の強みを活かし、トラブル・犯罪をしないで地域生活を楽しむことを知ってもらうことが、結果的に再犯防止につながる(ストレングスモデル、グッド・ライブズ・モデルの視点)

## ◎CMインタビュー

・話を受けた時はCMをはじめて1年目だった。どんな人なのか。自分でできるのか不安はあったが、自身も法人もこうゆう人だから受ける受けないという事はない。上司も応援してくれ受けることにした。法人としても個人としても触法は初めてだった。

・本人に会ってきちんと受け答えができる方で安心した。事前に会えることは大きい。本人のイメージができないと支援の組み立てや調整は難しいし、調整する時間も必要。

・ヘルパーやDSの職員も特に拒否的な反応はなかった。もちろん不安はあったようだが、情報提供をきちんとすることで安心できた様子だった。(特に本人の人となり等をイメージしやすいような情報提供をした。)

・他のケースで丸投げされることも多いので、一緒に動ける人がいるということはこころ強かった。

・一番良かった事は本人の希望するお花見旅行の実現に向けてみんなが集まって、目的の共有ができ、本人の喜びに繋がったこと。

・初めて、福祉サービスを使い福祉サービスにも馴染んでいる。要支援2で週2回のDSと週2回のヘルパーしか使えないのが残念だが、インフォーマルな資源も今後検討していきたい。(DSの職員に飲みに行こうとよく声をかけている。時々自分で行けるようなスナックなどがあるとよい)

・もともと一人で何でもやってきた生きるチカラがすごくある方だと思う。それが今の生活にも生きているのだと思う。

・事業所として今までそんなに大変なケースを受けてこなかった。力不足であり、力をつけなければいけないという話になっている。実際ケースを受けてやってみることが一番力がつくと思った。今後も機会があれば協力したい。

ご清聴ありがとうございました。



令和元年度 全国地域生活定着支援センター協議会  
東海・北陸ブロック専門研修会

1 目的

東海・北陸ブロック管内の司法、更生保護、福祉、行政等の関係機関を対象として、包括的支援の体制構築を念頭に置いた連携強化や理解促進を視野に、検討会、講演、当事者の声や現場の声を通し、情報共有とともに、ネットワークの強化・充実に努め、受け入れ促進に向けた普及啓発を一層推進するために開催する。

また、司法と福祉の連携における問題点を抽出し、今後の円滑な連携の資とする。

2 主催

一般社団法人 全国地域生活定着支援センター協議会  
（主管：石川県地域生活定着支援センター）

3 共催

石川県、金沢保護観察所

4 日時

1 日目：令和元年 9 月 19 日（木） 14：30～17：00

1 司法と福祉の検討会

2 意見交換会 18：00～「金沢駅周辺予定（別途連絡）」（会費：5,000 円程度）

2 日目：令和元年 9 月 20 日（金） 10：00～16：00 『全体専門研修会』

5 場所（石川県金沢市北安江 3 丁目 3-2-20）

1 日目（司法と福祉検討会）：金沢勤労者プラザ 3 階 304 研修室

2 日目（全体専門研修会）：金沢勤労者プラザ 1 階 多目的室

6 対象

全国地域生活定着支援センター協議会 東海・北陸ブロック会員  
東海・北陸ブロック管内の司法、更生保護、福祉、行政等の関係機関

7 内容

プログラムは、本紙裏面をご覧ください。

8 参加費

無料（全体専門研修会 定員 150 名）

9 申し込み方法

申し込み用紙（案内チラシ裏面）に必要事項をご記入の上、令和元年 8 月 28 日（水）までに、下記お問い合わせ先 F A X にてお申し込み下さい。

【お問い合わせ】 石川県地域生活定着支援センター 担当：安田、大向、太田  
T E L : 076-266-2922 (直) F A X : 076-266-1070 (代)

東海・北陸ブロック専門研修会プログラム（司法・福祉・行政機関等）

期 日	時 間	プログラム	内 容 等
9月19日 (木)	14:00～	受付開始	受付：3階 304研修室前
	14:30～17:00  (途中) 15分休憩	司法と福祉の検討会	『司法と福祉の連携における問題点等の検討』 東海・北陸ブロック定着職員、保護観察所職員、更生保護施設職員 刑務所職員、行政等職員、その他各県で必要と認める機関等 長崎県地域生活定着支援センター所長 厚生労働省社会援護局総務課・課長補佐 法務省保護局観察課・調査官
	18:00～	意見交換会	場所は、別途連絡
9月20日 (金)	09:00～	受付開始	各県ごとに受付場所を準備しています。
	09:55～	連絡事項等	開会5分前にアナウンスが流れます。
	10:00～10:15 (15分)	開会挨拶	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 石川県済生会 支部長 石川県健康福祉部障害保健福祉課長 金沢保護観察所長
	10:15～10:45 (30分)	行政説明	『地域生活定着促進事業について』 説明：厚生労働省社会・援護局総務課・課長補佐 青木 出 氏
	10:45～11:00 (30分)	実践報告	報告：石川県地域生活定着支援センター職員
	11:00～12:00 (60分)	基調講演	『触法障がい者・高齢者の立ち直りを地域で支えるために』 講師：長崎県地域生活定着支援センター所長・伊豆丸 剛史 氏 (全定協業務執行理事・事務局長)
	12:00～13:00 (60分)	休憩・昼食	
	13:00～14:00 (60分)	当事者の声を聴く！	『声を響かせ、その思いを参加者と共有します』 登壇：当事者、施設職員、支援者
	14:00～14:10 (10分)	休憩	
	14:10～15:40 (90分)	現場の声を聴かせて！	◎パネラー 伊豆丸 剛史 氏 (長崎県地域生活定着支援センター所長/全定協業務執行理事・事務局長) 青木 出 氏 (厚生労働省社会・援護局総務課・課長補佐) 林 寛之 氏 (法務省保護局観察課・調査官) 清水 明 氏 (更生保護法人徳風苑親和寮・福祉担当補導員) 三井 美千子 氏 (NPO 法人金沢あすなろ会理事長/自立準備ホーム金沢みんなのいえ) 片岡 正子 氏 (金沢市民生協会理事長/救護施設三谷の里ときわ苑苑長)
	15:40～15:55 (15分)	講評等	上記、登壇者より
	15:55～16:00 (5分)	閉会挨拶	石川県地域生活定着支援センター長

令和元年度 全国地域生活定着支援センター協議会

# 東海・北陸ブロック専門研修会

～触法障がい者・高齢者を地域に繋ぐために～  
居場所があれば立ち直れる！！

## プログラム

■ 9月19日（木） 司法と福祉の検討会

「連携における問題点を抽出し円滑な業務を目指して」

※ 厚生労働省社会・援護局総務課、法務省保護局観察課職員参加

■ 9月20日（金）

午前

1 行政説明：厚生労働省 社会・援護局総務課

2 実践報告：石川県地域生活定着支援センター

3 基調講演：「触法障がい者・高齢者の立ち直りを地域で支えるために」

講師 全定協業務執行理事・事務局長

長崎県地域生活定着支援センター所長

伊豆丸 剛史 氏

午後

4 「当事者の声を聴く！」

当事者と支援者等が語り、声を響かせ、その思いを参加者と共有します。

5 「現場の声を聴かせて！」

司法と福祉が一体となり、現場の声を届け、共に考えます！

1日目：令和元年9月19日（木） 14：30～17：00（受付開始 14：00）

（意見交換会 18：00～ 会費：5,000円程度 場所：金沢駅周辺予定）

2日目：令和元年9月20日（金） 10：00～16：00（受付開始 09：00）

場所：1日目 金沢勤労者プラザ 3階 304研修室

2日目 金沢勤労者プラザ 1階 多目的室

（石川県金沢市北安江3-2-20）

※有料駐車場190台（割引あり）

参加者：福祉・司法・医療関係機関の職員、行政職員等

定員150名 研修参加費 **無料**

事前申し込み必要

お申し込み方法は、裏面をご覧ください。

主催：一般社団法人 全国地域生活定着支援センター協議会

主管：石川県地域生活定着支援センター 共催：石川県、金沢保護観察所

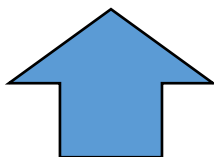
お問い合わせ

〒920-0353 石川県金沢市赤土町ニ13-6

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 石川県済生会

石川県地域生活定着支援センター 担当：安田、大向、太田

TEL：076-266-2922 FAX：076-266-1070（代）



F A X 送信先 : 0 7 6 - 2 6 6 - 1 0 7 0  
( F A X 送信票不要)

令和元年度 東海・北陸ブロック専門研修会 参加申し込み書  
石川県地域生活定着支援センター 行

■ 参加者

(ふりがな) 氏 名	職 名	参 加	意見交換会
( )		両日 1日目のみ 2日目のみ	参加 不参加
( )		両日 1日目のみ 2日目のみ	参加 不参加
( )		両日 1日目のみ 2日目のみ	参加 不参加

■ 連絡先

所 属			
住 所	〒		
電 話		F A X	

■ 連絡事項等あればご記入下さい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

必要事項をご記入の上、令和元年8月28日(水)までに、F A Xにてお申し込み下さい。  
「司法と福祉の検討会」及び「プログラム5」のアンケート用紙も併せてお願い致します。

## 司法と福祉の検討会

「連携における問題点等を抽出し円滑な業務を目指して」アンケート用紙

日頃の業務を通じ、何か感じていることをお聞かせ下さい。ご意見を取りまとめ、後日配布致します。

なお、当日は、時間の関係上、すべてを検討することは出来ないかもしれませんが、何卒ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

所属機関名：

問題点等の抽出	問題点等の改善策等

プログラム5 「現場の声を聴かせて！」アンケート用紙

テーマに合わせ皆さんが思うこと、考えていることなどをパネラーと参加者全員で考えたいと思います。

それぞれに思うことをお聞かせ下さい。個人、団体のどちらでも、アンケートにお答えできる範囲で構いませんので、ご協力をお願い致します。なお、氏名等は公表致しませんので、念のため申し添えます。

No.	質 問	回 答 欄
1	<p>「触法者」について、皆さんが思い浮かべるイメージをお聞かせ下さい。</p>	
2	<p>触法障がい者・高齢者が地域や施設での受入れが難しいのは、何故だと思えますか？</p>	
3	<p>触法障がい者・高齢者を施設や地域で受入れるために、どのようなことが必要だと思えますか？</p>	
4	<p>その他、ご意見、ご質問及びご要望等がございましたら、ご記入下さい。</p>	

ご協力ありがとうございました。



令和元年度 全国地域生活定着支援センター協議会  
東海・北陸ブロック専門研修会

1 目的

東海・北陸ブロック管内の司法、更生保護、福祉、行政等の関係機関を対象として、包括的支援の体制構築を念頭に置いた連携強化や理解促進を視野に、講演、当事者の声や現場の声を通し、情報共有とともにネットワークの強化・充実に努め、受け入れ促進に向けた普及啓発を一層推進するために開催する。

2 主催

一般社団法人 全国地域生活定着支援センター協議会  
（主管：石川県地域生活定着支援センター）

3 共催

石川県、金沢保護観察所

4 日時

令和元年9月20日（金） 10：00～16：00

5 場所

金沢勤労者プラザ 1階 多目的室  
（石川県金沢市北安江3-2-20：金沢駅西口から徒歩10分程度）

6 対象

全国地域生活定着支援センター協議会 東海・北陸ブロック会員  
東海・北陸ブロック管内の司法、更生保護、福祉、行政等の関係機関

7 内容

プログラムは、本紙裏面をご覧ください。

8 参加費

無料（定員150名）

9 申し込み方法

申し込み書（案内チラシ裏面）に必要事項をご記入の上、令和元年8月28日（水）までに、下記お問い合わせ先FAXにてお申し込み下さい。

【お問い合わせ】 石川県地域生活定着支援センター 担当：安田  
TEL：076-266-2922（直） FAX：076-266-1070（代）

## 東海・北陸ブロック専門研修会プログラム（関係機関等）

期 日	時 間	プログラム	内 容 等
9月20日 (金)	09:00～	受付開始	各県ごとに受付場所を準備しています。
	09:55～	連絡事項等	開会5分前にアナウンスが流れます。
	10:00～10:15 (15分)	開会挨拶	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 石川県済生会 支部長 石川県健康福祉部障害保健福祉課長 金沢保護観察所長
	10:15～10:45 (30分)	プログラム1 行政説明	『地域生活定着促進事業について』 説明：厚生労働省社会・援護局総務課・課長補佐 青木 出 氏
	10:45～11:00 (30分)	プログラム2 実践報告	報告：石川県地域生活定着支援センター職員
	11:00～12:00 (60分)	プログラム3 基調講演	『触法障がい者・高齢者の立ち直りを地域で支えるために』 講師：長崎県地域生活定着支援センター所長・伊豆丸 剛史 氏 (全定協業務執行理事・事務局長)
	12:00～13:00 (60分)	休憩・昼食	
	13:00～14:00 (60分)	プログラム4 当事者の声を聴く！	『声を響かせ、その思いを参加者と共有します』 登壇：当事者、施設職員、支援者
	14:00～14:10 (10分)	休憩	
	14:10～15:40 (90分)	プログラム5 現場の声を聴かせて！	◎パネラー 伊豆丸 剛史 氏 (長崎県地域生活定着支援センター所長/全定協業務執行理事・事務局長) 青木 出 氏 (厚生労働省社会・福祉援護局総務課・課長補佐) 林 寛之 氏 (法務省保護局観察課・調査官) 清水 明 氏 (更生保護法人 徳風苑・親和寮・福祉担当補導員) 三井 美千子 氏 (NPO 法人金沢あすなろ会理事長/自立準備ホーム金沢みんなのいえ) 片岡 正子 氏 (金沢市民生協会理事長/救護施設三谷の里ときわ苑苑長)
	15:40～15:55 (15分)	講評等	上記、登壇者より
	15:55～16:00 (5分)	閉会挨拶	石川県地域生活定着支援センター長